

小熊Ⅲ・木曾遺跡試掘調査報告書

1991・2

財団法人和歌山県文化財センター

例 言

- 1 本書は一般国道42号湯浅御坊道路(Ⅱ)建設に伴う小熊Ⅲ・木曾遺跡試掘調査の報告書である。
- 2 調査は建設省近畿地方建設局紀南工事事務所から委託を受け、財団法人和歌山県文化財センターが実施した。
- 3 調査並びに本書の作成は、河内一浩、村田弘が担当した。
- 4 参考資料として掲載した石斧の写真撮影、実測、トレースは河内が行った。
- 5 調査に当たっては建設省近畿地方建設局紀南工事事務所、和歌山県御坊土木事務所御坊高速事務所、川辺町教育委員会の協力を得た。また、石斧の掲載に当たっては清水長一郎氏の協力を得た。

目 次

1 はじめに	1
2 調 査	1
3 ま と め	4
4 参考資料	4

1 はじめに

今回の試掘調査は、一般国道42号湯浅御坊道路(Ⅱ)建設に当り、建設予定地に所在する小熊Ⅲ遺跡及び木曾遺跡の範囲・内容・性格等を確認するために実施したものである。

両遺跡は共に日高郡川辺町小熊の丘陵に所在し、和歌山県発行の遺跡地図により弥生時代の遺物の散布地として周知されており、木曾遺跡からは昭和49年丘陵を蜜柑畑にするための開墾作業中に石斧が出土している。

両遺跡が立地する丘陵先端部には、里神古墳・仏山古墳・弥谷古墳や奈良時代の地蔵寺山墳墓や平安時代の池田谷墳墓などの火葬墓が知られている。

調査期間は、当初契約では平成2年6月1日から同10月30日までの間であったが、作付けされている地点と未買収地点が計4地点存在していたため契約変更を行い、作付け地点は収穫後調査を行うこととし平成3年2月20日まで期間を延長して実施した。

2 調 査

当初の計画では建設予定地に幅3m・延長137mのトレンチ13地点を設定し調査を行う予定であったが、第13トレンチ地点が未買収であることと第8トレンチ地点が明らかに削平を受けた部分であるためこれを減じ、延長71mを設定し実施した。トレンチは北から順次番号を付し呼称した。なお、第1トレンチは小熊Ⅲ遺跡に、第2トレンチ以下は木曾遺跡に当る。調査は人力によるものとし、地山を検出するまで掘り下げた。

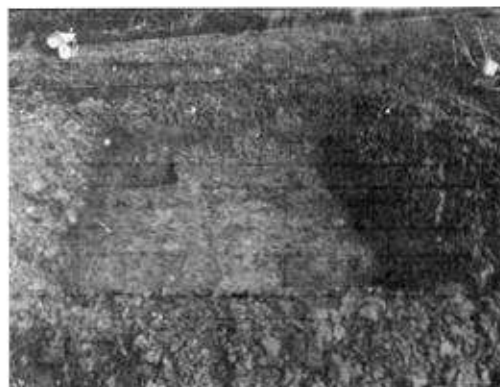
第1トレンチ

標高約38mの尾根上に位置する。長さ35m・幅3mのトレンチを設定し調査を行ったが、厚さ10cmの表土(腐食土)直下が地山であり、遺構及び遺物は検出されなかった。



第2トレンチ

試掘調査対象地点中唯一谷筋に位置し、現状は水田である。長さ幅共に3mのトレンチを設定し調査を行ったが、厚さ20cmの耕作土(客土)下には厚さ約10cmの床土があり、その下には厚さ約50cmの淡青灰色粘質土が存在するが遺物の包含は認められなかった。なお、淡青灰色粘質土の下は地山であり、遺構及び遺物は検出されなかった。





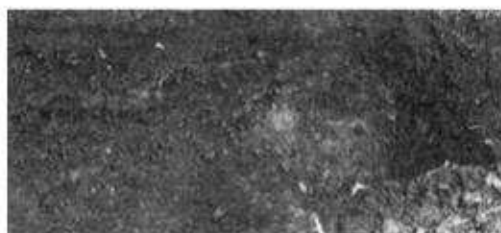
第3トレンチ

標高約29mの尾根上に位置し、現状は蜜柑畑である。長さ幅共に3mのトレンチを設定し調査を行ったが、厚さ20cmの耕作土(客土)を除去すると地山であり、遺構及び遺物は検出されなかった。



第4トレンチ

標高約27mの尾根上に位置し、現状は蜜柑畑である。長さ幅共に3mのトレンチを設定し調査を行った。現状は開墾を受けているため比較的平坦であるが、耕作土(客土)を除去すると南に傾斜する旧地形を示す地山を検出した。遺構及び遺物は検出されなかった。



第5トレンチ

標高約35mの尾根上に位置し、現状は畑である。長さ幅共に3mのトレンチを設定し調査を行ったが、厚さ20cmの耕作土(客土)を除去すると地山であり、遺構及び遺物は検出されなかった。



第6トレンチ

第5トレンチ同様標高約35mの尾根上に位置し、現状は畑である。長さ幅共に3mのトレンチを設定し調査を実施したが、厚さ20cmの耕作土を除去すると地山であった。遺構及び遺物は検出されなかった。



第7トレンチ

標高約49mの尾根斜面上に位置し、昭和49年に石斧が出土した地点に近接する。蜜柑畑内に長さ10m・幅3mのトレンチを設定し調査を行ったが、厚さ2cm～10cmの耕作土(客土)を除去すると地山であり、遺構及び遺物は検出されなかった。

第9トレンチ

標高約48mの尾根上に位置し、現状は蜜柑畑である。長さ幅共に3mのトレンチを設定し調査を行ったが、厚さ20cmの耕作土(客土)を除去すると地山であり、遺構及び遺物は検出されなかった。



第10トレンチ

標高約44mの尾根上に位置し、現状は蜜柑畑である。長さ幅共に3mのトレンチを設定し調査を行ったが、厚さ20cmの耕作土(客土)を除去すると地山であり、遺構及び遺物は検出されなかった。



第11トレンチ

標高約42mの尾根上に位置し、現状は蜜柑畑である。長さ幅共に3mのトレンチを設定し調査を行ったが、厚さ10cmの耕作土(客土)を除去すると地山であり、遺構及び遺物は検出されなかった。



第12トレンチ

標高約42mの尾根上に位置し、現状は蜜柑畑である。長さ幅共に3mのトレンチを設定し調査を行ったが、厚さ20cmの耕作土(客土)を除去すると地山であり、遺構及び遺物は検出されなかった。



3 ま と め

今回試掘調査の対象となった木曾・小熊両遺跡は、共に遺物の散布地として知られているが、その性格等については明かではなかった。両遺跡の位置する丘陵端には古墳や奈良・平安時代の墳墓が確認されており、今回の試掘調査においても確認される可能性があった。しかし、調査の結果、トレンチを設定した11ヵ所については蜜柑畑として開墾を受けた際に大きく削平あるいは地形の改変を受けており、いずれのトレンチにおいても遺構・遺物を検出及び確認することができなかった。

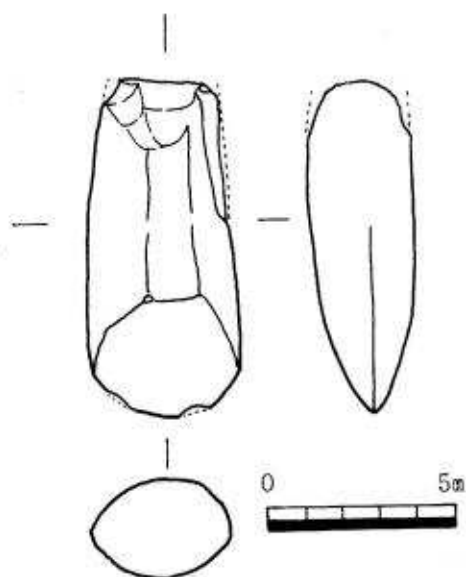
しかしながら、道路建設予定地面積に対し試掘調査を実施した面積は微々たるものであり、地形的に遺跡の存在する可能性が少ないため、今回試掘調査の対象とならなかった部分に遺構・遺物が存在しないとは断言できない。

4 参 考 資 料

木曾遺跡出土の石斧

昭和49年日高郡川辺町小熊字木曾の丘陵を地主の山本達雄氏が開墾した際、一点の石斧を採集された。石斧は現在川辺町在住の清水長一郎氏が保管されている。開墾は重機によって行われたため、石斧の出土状況や共伴遺物については詳らかではない。出土地点は、今回試掘調査を実施した第7トレンチの南に当り、現在は丘陵頂部が開墾により平坦面を呈しているが、踏査及び地形図から開墾前は緩やかな傾斜を持つ斜面ではなかったかと考えられ、石斧が単独で出土した可能性もある。

石斧は、緑泥片岩を石材にした磨製で、断面が楕円形を呈するところから「乳棒状磨製石斧」に属し、刃部幅4.2cm・現存長8.8cmを測るが、基端が欠損しているため本来の長さは不明である。刃部は蛤を合わせたような両凸刃で、刃縁は丸みを帯びる。基部は端部に行くに従い細くなり、現存基端で厚さ2.4cmを測る。形態から縄文時代中期から後期のものではないかとえられる。



小熊Ⅲ・木曾遺跡試掘調査報告書

平成 3 年 3 月

発行 和歌山県文化財センター

印刷 有限会社 土屋総合印刷